給食だより

令和４年１２月２３日
さいたま市立浦和中学校
給食室

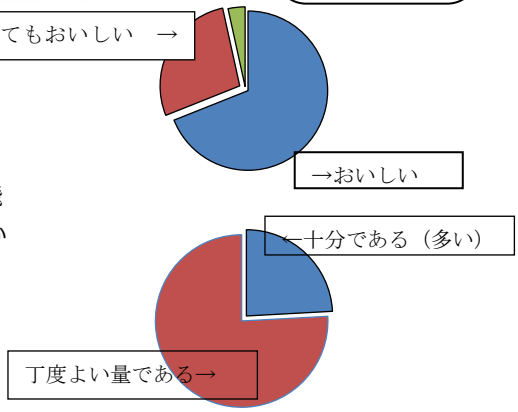
１２月１３・１４日に３年ぶりに保護者役員さんのご協力で給食試食会が行われました。

参加された３年生の保護者全員から、開催され参加することができて「よかった」との感想をいただきました。一部ですが感想を載せさせていただきます。また、給食の味付けと量（グラフ参照）についてアンケートを行いましたのでお知らせいたします。（献立はHPを参考にしてください）

役員さんによる配膳でした。中学生の分量がむずかしいですね……

教室で距離をとっての喫食でした。早く会食ができるといいですね

- ３年間待っていました。実現して頂きありがとうございました。家で食べているご飯(米)の量の倍くらい食べているのかとびっくりしました。
- 試食会開催ありがとうございます。味もとっても美味しかったです。子どもがいつも給食を楽しみにしています。
- 出汁を取ったお味噌汁や、彩りも味も考えられたサラダなど、バラエティに飛んで美味しくいただきました。黒板の説明解説イラストもわかりやすくて良かったです。
- 入学してから初めて給食をいただきましたが、ありがたいと思っています。さんまの煮付けや、具沢山のスープなどバランスがとれた食事をいただけておいしかったです。良かったです。自宅で作る料理より薄味で出汁がきいていると感じました。このくらいの味付けが良いのだな、と参考になりました。



★★★　学校給食週間で食べることの意味を、今一度考えてみましょう。★★★

１月24日から30日は全国学校給食週間です。明治22年山形県鶴岡市で始まったといわれる日本の学校給食は、学校にお弁当を持ってこられない子どもたちのために、おにぎりと塩鮭、漬物等を出したのが始まりです。日本はまだまだ貧しい国でしたから、とても貴重な食事でした。

それから「栄養的にもよい」という理由から全国に広がりました。もちろんですが、好き嫌いなどを言って残すことはない時代です。そして、第二次世界大戦が起きて、日本中の食べ物が不足し、給食もできなくなりました。その後、戦争が終わり、外国やユニセフなどから子どもたちの給食にと、小麦粉や脱脂粉乳が日本に贈られ、再び給食ができるようになりました。

昭和２１年、東京、神奈川、千葉の学校で試験的に学校給食が実施されました。この年の１２月２４日に東京の永田町小学校で、ユニセフ、アジア救援団体から贈られた食料物資（ララ物資）の贈呈式がおこなわれたのを記念日としました。この日が多くの学校の終業式等にあたり給食がないので、１カ月後の１月２４日から１週間を全国の学校給食週間として、給食を通して食べ物や作ってくれる調理員さん、生産者の方々に感謝し、食事のあり方や郷土や世界に目を向ける機会とするなどいろいろな行事が行われます。２０３０年に向けて国連で採択されている、SDGｓも視野に入れて「食」を考える機会としてください。浦和中学校給食室でも、和食、洋食、埼玉県や地方の郷土食、生徒の作成した献立、リクエスト等をとりいれて楽しく、美味しい給食を心がけています。伝えたい郷土の食事や地方の料理、仲間の作った献立、そしてバランスのよい献立から**「食べ物に感謝」**する気持ちを持ってもらいたいと思っています。浦和中学校の生徒は残す生徒が大変少ないです。生涯の糧となる中学生の成長期に必要な栄養を残さずに十分食べてください。併せて、私たちは「なぜ、残さずに食べたほうがよいのかを？」「いただきます」「ごちそうさま」を言うのかを考えてみましょう。当たり前である「食べること」ってなんなのかを！！